



南太秦だより

令和6年度前期学校評価結果

令和6年9月
京都市立南太秦小学校
校長 上田 清乃

令和6年度の前期学校評価の結果と考察をお知らせいたします。保護者の皆様には、Microsoft Forms による学校評価へのご協力、誠にありがとうございました。

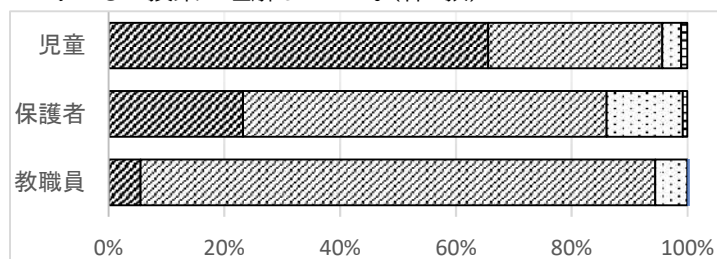
アンケート項目を『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の3つに分け、今年度前期の学校生活や学習の様子について、児童・保護者・教職員の回答結果を並べて考察し、まとめたものをお知らせいたします。グラフの割合は左から「そう思う」、「大体そう思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」としています。質問内容は同じですが、対象によって聞き方を変えています。（児）は児童への質問、（保・教）は保護者・教職員への質問です。

本アンケートの結果から、今後の子どもたちへの関わりを見直す機会として学校評価の結果をとらえていきたいと考えています。

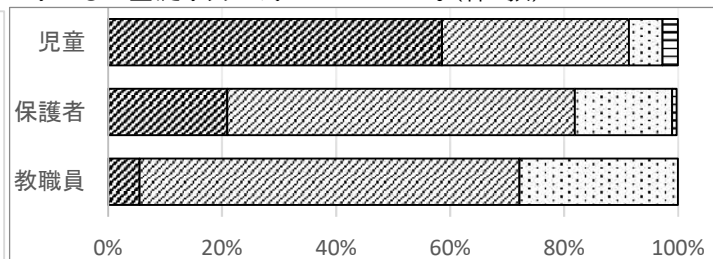
確かな学力

「自ら学び、進んで表現する子」

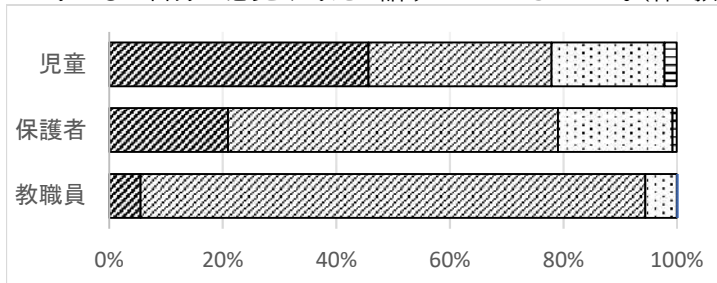
- 1 がっこうの べんきょうは よく わかる。（児）
子どもは授業を理解している。（保・教）



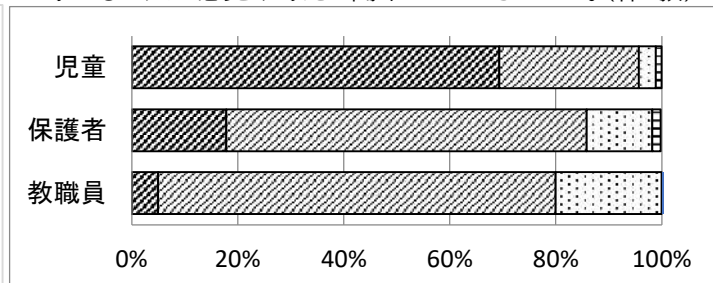
- 2 かんじ(もじ)の よみかきや きんすうの けいさんは できている。（児）
子どもは基礎学力が身についている。（保・教）



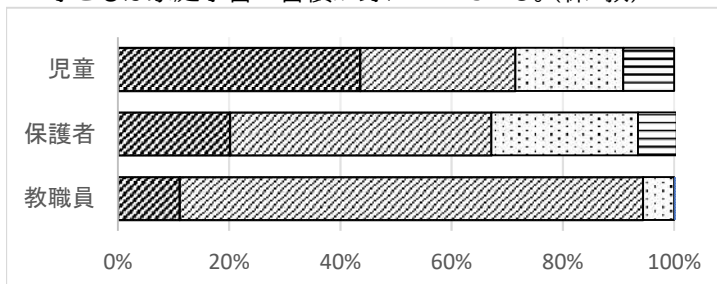
- 3 じゅぎょうちゅうに じぶんの いけんや かんがえを はなしている。（児）
子どもは自分の意見や考えを話すことができる。（保・教）



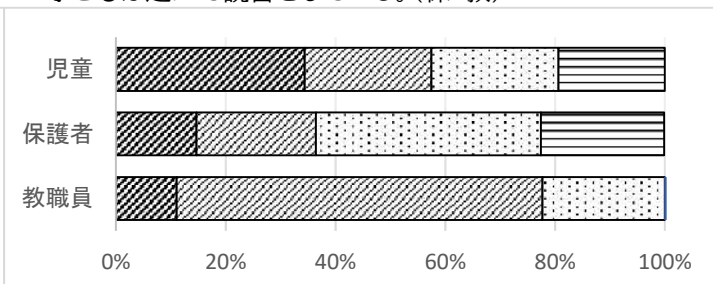
- 4 ともだちの いけんや かんがえを しっかり きいている。（児）
子どもは人の意見や考えを聞くことができる。（保・教）



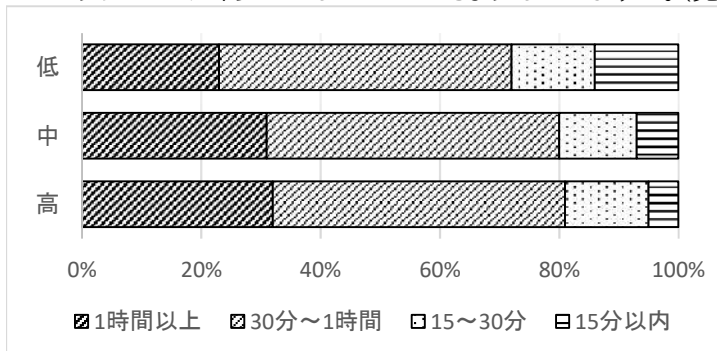
- 5 おうちでの しゅくだいや がくしゅうは きまった じかんに やっている。（児）
子どもは家庭学習の習慣が身についている。（保・教）



- 6 がっこうや おうちで よく どくしょを している。（児）
子どもは進んで読書をしている。（保・教）



- 7 おうちで どれくらいの じかん べんきょう していますか。（児）



★家庭学習の目安時間は15分×学年とされています。

勉強中です



以下の分析に関しまして、便宜上「そう思う」をA評価、「大体そう思う」をB評価、「あまりそう思わない」をC評価、「思わない」をD評価として記述いたします。

設問2「基礎学力が身についている」という質問では、教職員の28%がC評価をつけています。これは「確かな学力」の教職員がつけたC評価の中で最も割合の多い項目となりました。読み・書き・計算は全ての学習の基盤ですので、学校では毎日の朝学習やパワーアップタイムの中で培い、各家庭では、コツコツ進めることができる宿題を出すことで、基礎学力の向上をさらに目指したいです。また、中学年以上では、自主学習ノートを活用します。自分の興味のあることを深めることと共に、自分の苦手な分野を少しずつ減らしていく学習を進めることもおすすめです。

設問4「人の話をしっかり聞いている」という質問に対して、児童のA評価69%に対して教職員のA評価は5%です。子どもたちは「できている」と感じていても、教職員から見ると「もっとできるようになって欲しい」と感じる結果となりました。どんな姿が「しっかり」と聞く姿なのか、例えば、話し手の方を見る、おへそを向ける、自分の考えを比較しながら聞くなど、より具体的な姿を示し、それができるよう指導し続ける必要があると感じます。

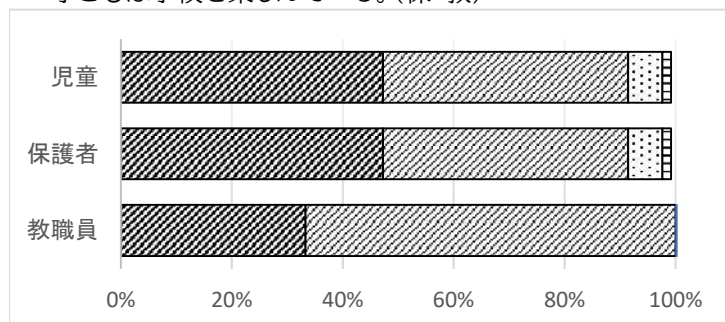
設問6「学校や家で本を読んでいる」という設問ですが、教職員のA・B評価78%に対して、保護者のA・B評価が37%となっております。学校の朝読書や隙間の時間に読書をする様子はよく見られますが、お家では自ら読書する機会が少ないことが窺えます。夏休み等の機会に宿題で読書の宿題を出してはありますが、お家でも継続的に読書に親しむ機会をつくっていただければと思います。テレビや動画視聴は、ただ流れてくる映像や音声を受けるのみとなり、子たちの想像力や思考力はなかなか育まれません。ご家庭におかれましても、例えば寝る前の15分間は読書するなどの時間を創出してくださると良いと思います。

どの項目も評価が高いのは、児童>保護者>教職員の順となっています。子どもたちには、あらゆる場面で具体的な目指す姿を提示し、そこに到達できるように保護者・教職員の意識を揃えて指導・声かけをしていくことでよりよい姿になるよう引き上げていきたいです。

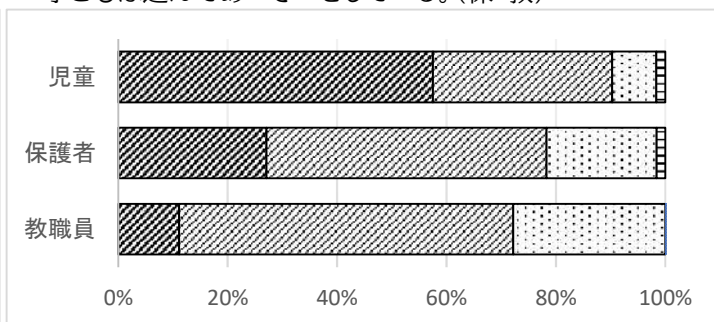
豊かな心

「多様な価値観を互いに尊重し合う子」

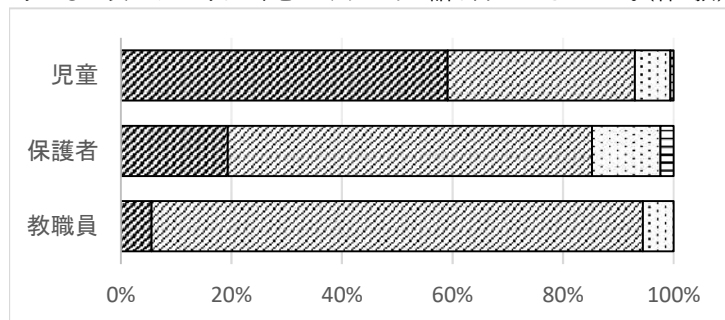
- 8 がっこうは たのしい。(児)
子どもは学校を楽しんでいる。(保・教)



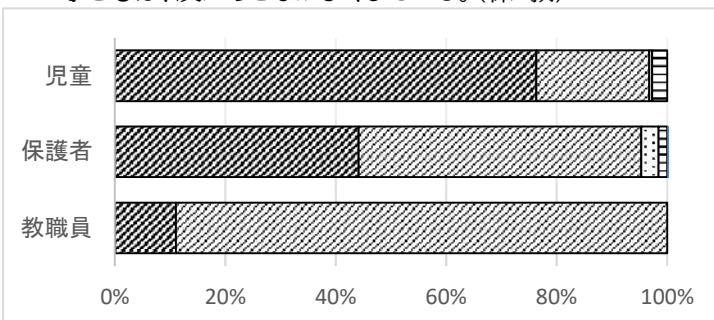
- 9 すすんで あいさつを している。(児)
子どもは進んであいさつをしている。(保・教)



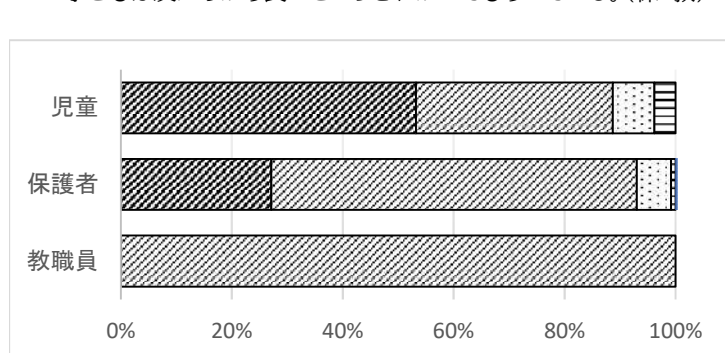
- 10 ともだちの きもちを かんがえて ことばを つかっている。(児)
子どもは友だちに対して、思いやりのある話し方ができている。(保・教)



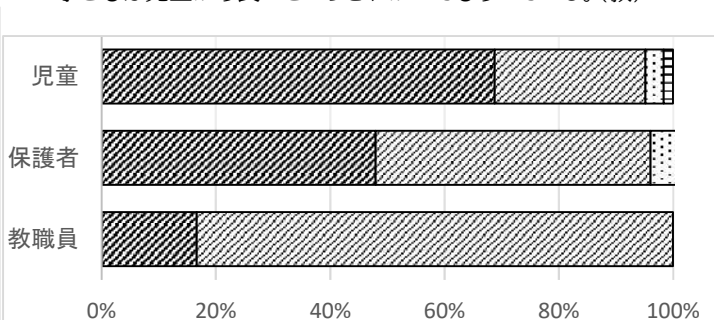
- 11 いじめや なかまはずれはせず、ともだちと なかよく している。(児)
子どもは、友だちとなかよくしている。(保・教)



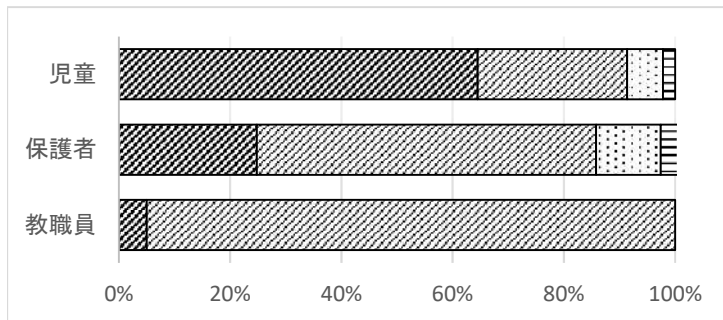
- 12 ともだちは、わたしの よいところを わかっている。(児)
子どもは友だちから良いところをわかってもらっている。(保・教)



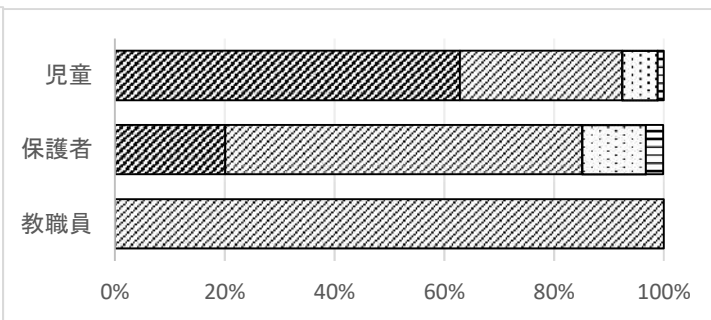
- 13 たんにんの せんせいは、わたしの よいところを わかっている。(児)
子どもは担任の先生から良いところをわかってもらっている。(保)
子どもは先生から良いところをわかってもらっている。(教)



14 がっこうの せんせいは そうだん しやすい。(児)
子どもは教職員に相談しやすいと感じている。(保・教)



15 きまりや やくそくを もまっている。(児)
子どもはきまりや約束を守っている。(保・教)



設問 8「学校は楽しい」かについて、児童・保護者 91%、教職員 100%がA・B評価をつけています。学校が楽しいことは、子どもたちにとって登校するうえで必須事項と考えます。3者とも高評価という点はうれしいですが、一方で児童・保護者にC・D評価があることも看過できません。3者のA・B評価が100%となるよう今後も一人一人を大切にした学校・学級運営をしていきます。

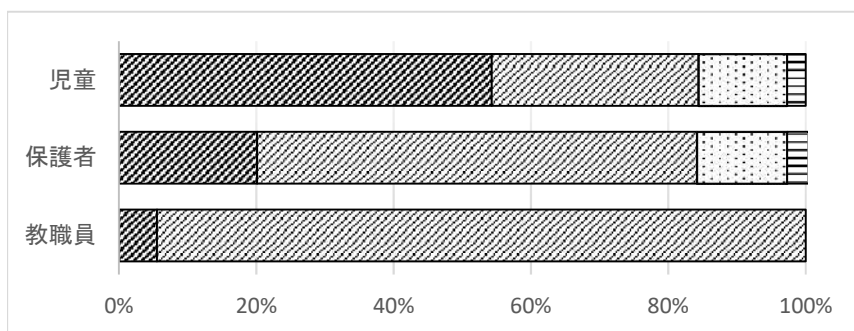
設問 10「子どもは友だちに対して、思いやりのある話し方ができている」という設問に対して、保護者のC・D評価が3者の中で最も高く、14%でした。放課後の様子の中で保護者の方が聞かれて気になる話し方や内容があるのかもしれません。子どもたちには学校内外に関わらず、誰に対しても思いやりのある話し方ができるよう引き続き学校でも指導を続けていきます。

設問 14「子どもは、教職員に相談しやすいと感じている」かに対して児童の8%、保護者の15%がC・D評価をつけています。1日の多くの時間を過ごす学校は、子どもたちにとって困りや不安のない場所である必要があります。困りや不安が生じた際には、「この人になら安心して相談できる」という信頼関係を一層構築できるよう今後とも心がけていきます。

健やかな体

「心と体を大切にする子」

16 「はやね・はやおき・あさごはん」を まもっている。(児)
子どもは規則正しい生活を送っている。(保・教)



○5月大型連休明けの「生活リズム調べ」の結果より

◎就寝時刻の様子

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
①	30.3%	54.8%	47.9%	34.3%	65.2%	53.8%
②	33.3%	28.2%	34.3%	39.0%	20.5%	28.8%
③	36.4%	17.0%	17.8%	26.7%	14.3%	17.4%

①…低学年9時までに就寝 中学年9時半までに就寝 高学年10時までに就寝

②…低学年9時半までに就寝 中学年10時までに就寝 高学年11時までに就寝

③…低学年9時半以降に就寝 中学年10時以降に就寝 高学年11時以降に就寝

←目標就寝時刻



◎朝食摂取の様子

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
99.0%	99.2%	95.7%	98.8%	92.9%	94.7%

◎起床時刻の様子

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
①	55.6%	83.1%	59.3%	82.6%	79.5%	65.9%
②	39.4%	9.7%	30.7%	14.0%	17.9%	27.3%
③	5.0%	7.2%	10.0%	3.4%	2.6%	6.8%

①…全学年7時までに起床 ←目標起床時刻

②…全学年7時半までに起床

③…全学年7時半以降に起床



「就寝時刻」やについては、目標就寝時刻までに寝られている児童の割合は学年によって、大きく異なる結果となりました。「起床時刻」については、どの学年も7時半までに起きている児童の割合が多い結果となりました。睡眠時刻と起床時刻はお家の協力も不可欠な項目です。体調を崩して保健室へ来室する児童の大半が「寝るのが遅かった」と答えています。就寝前にスマホやタブレット、ゲームなどで「つつい」「気が付くこんな時間」だったという様子も見られます。上に兄弟姉妹がいる、習い事があるなど、各家庭の生活スタイルがあるかと思いますが、大人の生活時間に合わせて動くのではなく、なるべく早く体を休められるようにしましょう。

「朝食摂取の様子」については、ご家庭の協力もあり、多くの児童が朝食を食べて登校することができています。欠食の理由としては時間が無かったり、起床後にお腹が空いていなかったり、朝食を食べる習慣があまりなかったりと様々です。朝食は午前中の学習への集中力にも関わる大事なものですので、100%に近づけるよう、引き続きご協力をお願いします。

起床の様子では、起床時刻が遅い児童ほど、朝の身支度の時間が取れず「朝食抜き」「歯みがきできていない」「排便がない」など他のところへ影響している様子が見られます。特に朝の歯みがきが毎日できていない児童は毎回同じ状態が見られ、保護者の方の関心も他に比べると低いようです。むし歯だけでなく、口臭などにも影響しますので、朝の歯みがきの様子もご確認ください。

保護者の皆様より 自由記述(一部抜粋)

○苦手科目が目立ってきてそんな自分に自信を持てなかったり、人間関係にモヤモヤするような気持ちが芽生えてきたりするように感じます。成長や自立の機会と思って励まし見守っていくべきか親としてどこまで手助けしていくのがベターか悩ましいです。

→小学生の時期は、自分で問題を解決できることよりも、大人の支援を必要とする場面の方が多いです。保護者の方と一緒に苦手教科を勉強したり、様々な個性をもつ友達とうまくつきあっていく方法を一緒に考えたりする機会は必要だと感じます。「みんなちがって みんないい」という意識を学校でも浸透させていきたいです。

○教科書やノートを見て自分なりにまとめてテスト勉強する力がついてる事に、日々の自主学習の成果は、すごく感じます。その反面、毎日6時間目までであるという事もあり、木曜くらいになると、宿題が多いと苛立っている時もあり、本人が負担に感じてる姿も見受けられます。

→自主学習は、子どもたちは自分で計画を立て、実行する力を養います。これは将来の学習や仕事においても重要なスキルです。そして、時間管理や目標設定の練習にもなります。これにより、子どもたちは自分の学習進度を把握し、効率的に学ぶ方法を身につけることができます。また、自分で問題を見つけ、それを解決する方法を考える機会が増えます。これにより、論理的思考力や創造力が育まれます。自主学習の宿題をすることがしんどいときもあると思いますが、負担と思わず、自分を広げ、深める機会として、時には楽しんで取り組める内容を選択して学習を進めてもらえると良いと思います。

学校運営協議会の皆様より

- ・子ども同士の言葉遣いで内容がきつと感じることがある。
- ・友達同士お互いをリスペクトし、コミュニケーションをとる時間をとってほしい。
- ・言葉遣いは成長と共に徐々に身についていくと思われる。
- ・児童・保護者の1割弱の割合が「学校が楽しくない」と答えているので、原因を見極める必要がある。
- ・あいさつのA評価に関して児童は約60%、教職員は約10%である。あいさつは、みなうずのスローガンにもなっているので今後3者のA評価の割合を増えることを期待したい。
- ・地域での危険な遊び方が気になるので、家庭でも目を配ってほしい。
- ・子どもがスマホを見る時間が長くなり、就寝時刻が遅くなっているのならば、家庭においてもルールを作った方がよい。
- ・家庭で親も関わりながら、読書の習慣をつけてほしい。
- ・「しっかり聞く」とはどういう姿なのか、子どもたちに求める姿を示すことも必要。
- ・朝食摂取の割合は思っていたよりも高い。時間がなくても少しでもいいから何かを口にすることを習慣をつけてほしい。